

特別企画：パチンコ・パチスロ関連業者の経営実態調査

ホール経営業者は 2 年連続で総売上減少

～ メーカー・卸は総売上 1 割以上減少 ～

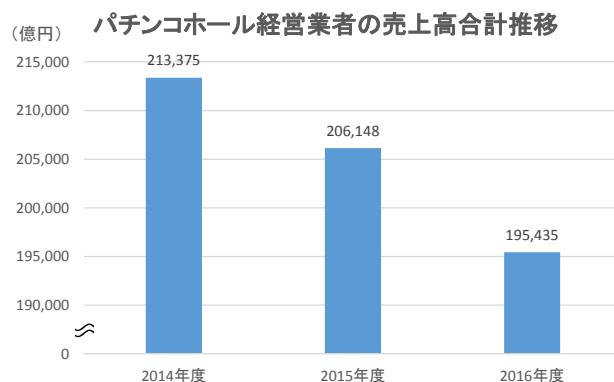
はじめに

パチンコ・パチスロ業界は、「依存症問題」に端を発し規制強化が進み、2016 年末は非適合機種
 の撤去期限となるなど、経営環境が大きく変化している。2017 年 9 月末にはパチスロ機の 5.5 号
 機が販売中止となり、射幸性を調整した 5.9 号機に移行する動きがあった。また、2018 年 2 月
 には、1 日の遊技時間を 4 時間と想定したうえで出玉上限を従来の 3 分の 2 の水準とする規制強化が
 控えている。「射幸性の低下が集客力にも影響を及ぼしている」との声も聞かれており、業績への
 影響度が注目されている。

帝国データバンクでは、企業概要ファイル「COSMOS2」（147 万社収録）の中から、3 期連続で業
 績が判明しているパチンコ関連業者を、『パチンコホール経営業者』（2353 社）、『パチンコ・パチ
 スロ機卸業者』（412 社）、『パチンコ・パチスロ機メーカー』（20 社）の分類で抽出。各業態の売
 上高合計（総売上）などについて調査・分析した。

調査結果（要旨）

1. パチンコホール経営業者 2353 社の売上高合計を見ると、2016 年度は 19 兆 5435 億円となり、2
 年連続で減少、前年度比で 5.2% 減少した。また、2016 年度に「増収」となったのは 203 社（構
 成比 8.6%）で、そのうち 2 年連続で「増収」となったのは 71 社（構成比 3.0%）となった
2. パチンコ・パチスロ機卸業者 412 社の売上高合計を見ると、2016 年度は前年度比 12.5% 減の
 7523 億円となった。「増収」となった
 企業は、2015 年度が 152 社（同 36.9%）、
 2016 年度が 141 社（同 34.2%）と減
 少傾向にある
3. パチンコ・パチスロ機メーカー 20 社の
 売上高合計を見ると、2014 年度は 1 兆
 1817 億円、2015 年度は 1 兆 1832 億円
 （前年度比 0.1% 増）と、ほぼ横ばい
 の推移だったが、2016 年度は前年度比
 14.2% 減の 1 兆 151 億円だった

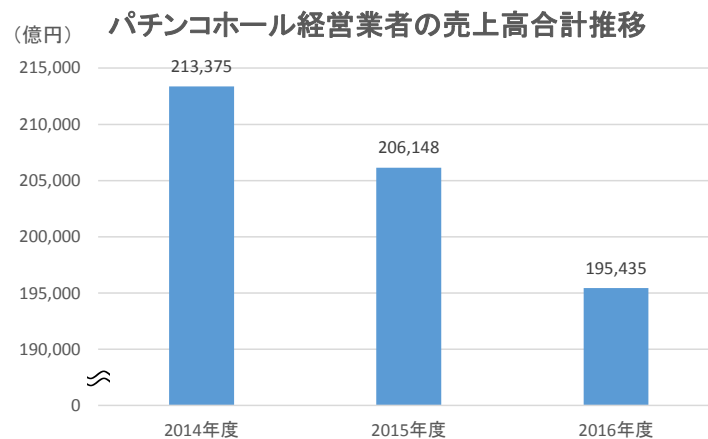


1. パチンコホール経営業者 ～ 売上高合計は2年連続で減少 ～

(1)

パチンコホール経営業者 2353 社の売上高合計を見ると、2014 年度は 21 兆 3375 億円だった。以降、減収傾向にあり、2015 年度は 20 兆 6148 億円、2016 年度は 19 兆 5435 億円だった。

また、減少幅が拡大しており、2015 年度は前年度比 3.4% の減少であったが、2016 年度は前年度比 5.2% の減少であった。規制強化で射幸性の低下が進むなか、売上高合計は減少基調で推移している。



(2)

増減収の推移を見ると、「増収」は 2015 年度が 287 社 (同 12.2%)、2016 年度が 203 社 (同 8.6%) と減少した。また、「減収」は 2015 年度 1331 社 (同 56.6%)、2016 年度 1216 社 (同 51.7%) と推移しており、2 年連続で過半数を占めている。

さらに、2015 年度と 2016 年度の 2 年連続で「減収」は 882 社 (構成比 37.5%) だったのに対し、2 年連続で「増収」となったのは 71 社で、全体の 3.0% に留まっていた。

増減収の推移

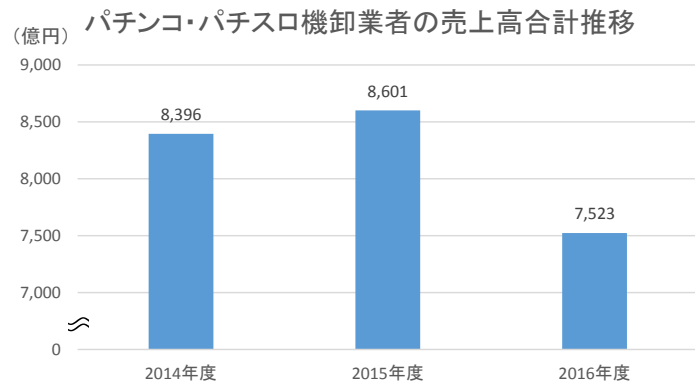
		2016年度			合計
		増収	横ばい	減収	
2015年度	増収	71 (3.0)	66 (2.8)	150 (6.4)	287 (12.2)
	横ばい	21 (0.9)	530 (22.5)	184 (7.8)	735 (31.2)
	減収	111 (4.7)	338 (14.4)	882 (37.5)	1,331 (56.6)
合計		203 (8.6)	934 (39.7)	1,216 (51.7)	2,353 (100.0)

2. パチンコ・パチスロ機卸業者 ～ 2016 年度の売上高合計は前年度比 12.5%減 ～

(1)

パチンコ・パチスロ機卸業者 412 社の売上高合計を見ると、2014 年度は 8396 億円。2015 年度は前年度比 2.4%増の 8601 億円だった。しかし、2016 年度は前年度比 12.5%減の 7523 億円となっている。

2015 年度は、パチンコホールが集客力強化のため、定期的に遊技機の入替えを行うなか、大手メーカー系の販売業者が増収となったこともプラス要因となり合計値が増加した。しかし、2016 年度は非適合機種ของホール設置に対する規制が厳格化されたことで、中古台の流通が大きく減少。この結果、販売できる遊技機の台数が減少し、売上高合計は減少した。



(2)

増減収の推移を見ると、2015 年度の「増収」は 152 社(同 36.9%)、2016 年度は 141 社(同 34.2%)と、減少した。売上高合計は 2015 年度に増加していたが、これはメーカー系の手数社が「増収」となったことが背景にあり、社数で見ると「増収」となった業者は減少基調で推移している。

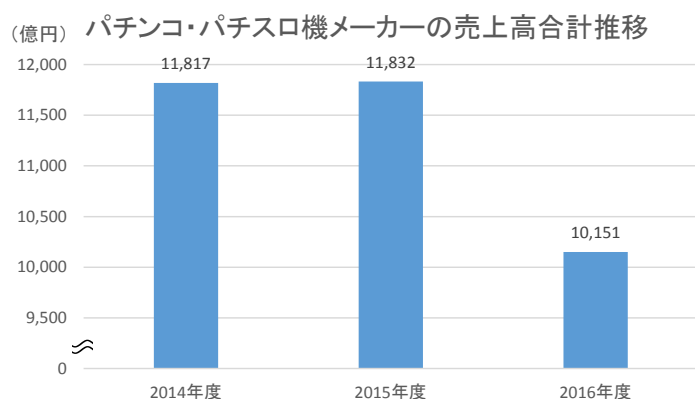
増減収の推移

	2015年度		2016年度	
	社数	構成比	社数	構成比
増収	152	36.9 %	141	34.2 %
減収	151	36.7 %	141	34.2 %
横ばい	109	26.5 %	130	31.6 %
合計	412	100.0 %	412	100.0 %

3. パチンコ・パチスロ機メーカー ～ 2016 年度の売上高は前年度比 14.2%減 ～

(1)

パチンコ・パチスロ機メーカー 20 社の売上高合計を見ると、2014 年度は 1 兆 1817 億円、2015 年度は 1 兆 1832 億円(前年度比 0.1%増)と、ほぼ横ばいの推移だったが、2016 年度は前年度比 14.2%減の 1 兆 1015 億円だった。2016 年 12 月末を期日とする非適合機種の撤去期限が迫るなか、中古遊技機だけでなく、新台のリリース・販売も減少傾向にあった影響が反映された。



(2)

増減収の推移を見ると、2015年度の「増収」は9社（構成比45.0%）、2016年度は8社（同40.0%）と減少した。また、「減収」は2015年度、2016年度ともに11社（構成比55.0%）で過半数を占めた。

増減収の推移

	2015年度		2016年度	
	社数	構成比	社数	構成比
増収	9	45.0 %	8	40.0 %
減収	11	55.0 %	11	55.0 %
横ばい	0	0.0 %	1	5.0 %
合計	20	100.0 %	20	100.0 %

4. まとめ

「依存症問題」に端を発する規制強化の流れは、各社の売り上げに影響を及ぼしているが、業態によって影響の受け方は異なっている。「パチンコホール経営業者」は、もともと遊技人口が減少傾向にあったが、規制強化で射幸性が低下したことでさらに客足が遠のくなか、売上高合計が2年連続で減少となった。他方、「パチンコ・パチスロ機卸業者」、「パチンコ・パチスロ機メーカー」は、パチンコホール経営業者が集客力の強化を目的として定期的に遊技機入れ替えを進めるなか、2015年度は売上高合計が増加していたが、2016年度は「非適合機種 of 撤去期限」や「新基準導入を見越した買い控え」など特殊要因が足かせとなり、売上高合計が10%以上減少する結果となった。

2017年度の売上高合計は、買い控えの反動増で、「パチンコ・パチスロ機卸業者」「パチンコ・パチスロ機メーカー」において再び増加に転じる可能性がある。しかし、中長期的に見れば、川下の「パチンコホール経営業者」の減少が続く限り、メーカー・卸の2業態においても厳しい状況となるだろう。

パチンコ・パチスロ業界における規制強化は、「ギャンブル依存症」や「のめり込み問題」が指摘されるなか始まった動きであり、各業界団体も“適度に楽しむ”ということを推奨している。現在は「射幸性の低下が集客力の低下に結びついている」との声が多く聞かれるが、パチンコ・パチスロ業界は関係者各位が総力を挙げて従来とは違った楽しみ方を提供する必要に迫られている。この変化に対応できない業者の中から今後、淘汰される企業が出てくる可能性もある。

【 内容に関する問い合わせ先 】

(株) 帝国データバンク 東京支社 情報部 つづる き 綴木 猛
TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-3148

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。